

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム南新木のおうち
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	千葉県我孫子市新木2585-5
記入者名 (管理者)	湊谷 宏美 式庄 直子
記入日	平成 20 年 9 月 26 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	少人数制・質の向上・人間尊重等をうたうことによって、「心のかよった最高の介護環境の提供」を法人独自の理念として提唱している。	○	南新木のおうちは、新興住宅地に隣接しているので新住民が多いので、この人たちとの交流を深める努力をしたい。職員も出来るだけこの地域に居住の方々に来ている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示するほか、職員にも配布し、理念の共有・実践に取り組んでいる。	○	当法人の介護理念は、介護を受ける人々が、もし健常者だったらどういふことをしてほしいかという観点に立った介護をおこなうことを理念としている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時契約にて理念を家族に説明している。また、事業所HPにて法人理念を掲載し多くの方々に公表している。	○	家族との交流会を通じて周知徹底する。及び、認知症サポーター研修を市内各地で開催し、認知症に対し正しい理解と偏見をなくす運動をおこなった。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	元地主さん・食材購入先が隣近所にあり、頻繁な交流をおこなっている。	○	隣近住民に施設の存在を認識していただくように、散歩や買い物で行きかう人々に挨拶をしている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老を祝う会でも近隣の人にも呼びかけ、家族・入居者・職員等とふれあう機会を作った。また、ふだんより近隣農家の方よりお野菜をいただいたりと交流ができていると思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	高齢化社会の進行と共に、高齢者介護で悩む家族の増加が予想されている。こういう悩みに対応することで地域に貢献できると考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	第三者の目を入れることで、問題点を抽出し、ケアプランの改善やより良いケアが実現させやすい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	運営推進会議を開催することで第三者の意見を拝聴する機会を得て、ケアプランの改善やケア技術の向上につなげる。また、運営推進委員には行事に参加してもらい、ホームでの様子を見ていただいている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	我孫子市役所介護支援課のメンバーが運営推進会議に参加願うなど、HRの構築が実現されており、何でも相談できる関係は維持されている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	認知症サポーター研修や市民成年後見人養成講座を主催し、成年後見制度の啓蒙活動をおこなっている。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	虐待防止の徹底を機会あるごとに徹底している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び解約時は勿論のこと、ご家族には常時お気軽に立ち寄っていただいております、その都度不安・疑問点の解消に努めている。	○	入居に当たっては、事前見学、お試し利用、ケアマネジャー、管理者、理事などの面接を重ね、十分な納得度を得ている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員に話があった場合には、スタッフ会議で話し合い、運営・ケアプランに反映させている。	○	利用者の気持ちをスタッフが注意して聞き逃さないよう心がけている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来訪時には、介護計画をもとに話し合いを行っている。及び毎月施設だよりを発行し、施設の取り組みを報告している。また、ご家族が病院へ通院される時にはケアマネ及び職員が同行し、普段の様子を直接ドクターにお伝えしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「理事長への手紙」BOXを設置し、意見の受入をおこなっている。また、市役所及び社会福祉協議会への連絡先を入居時契約書及び玄関に掲示しており、外部への相談についても支援している。	○	行事に家族参加を促し、機会あるごとに意見交換をおこなっている。理事長へ直接届けたい意見をお持ちの方には、理事長への手紙函を設置して匿名でも提案できるようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議及び管理者企画会議を毎月開催し、意見交換を積極的におこなっている。	○	日々の生活の中での意見、提案、改革案などを聞き、実行するものはすぐに実行している
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	催しの開催や外出の機会を積極的に設け、それにとめない勤務の調整をおこなっている。	○	管理者及びケアマネは、できる限りフリーな状態であるように努め、急病や受診時などの対応をしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	まずは離職がないよう最大限に努め、万が一代わる場合は新任研修時に利用者の特徴などを引き継いでいる。	○	管理者は職員が働きやすい環境を整えるよう努力をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	同業者の実態見学をおこなうことで、自陣営の良い面、悪い面が明確になりケアの質的向上を図りやすい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	各職員の思いを十分受け入れる努力をしている。風通しの良い職場作りに向けて理事及び管理者が取り組んでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	この仕事は人的集約産業であり各人の力量向上とチームワークが求められている。これを助長する為意思疎通の良い職場作りに努力している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	見学、お試しなどを通じて本人の希望や考え方を把握している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	事前の見学、お試し利用、ケアマネージャー、管理者、役員の訪問面接などをおこないお互いを知る努力をおこなっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を積極的に受入、グループホームの長所短所、通所を含めた他施設のサービスの説明をおこなっている。	○	本人の生活歴を家族の協力を得て調査し、生活歴からも支援の方法を見極める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時の本人への状況説明・対応を家族と相談し、職員統一した認識でお迎えしている。	○	見学、お試しなどを通じて本人の希望や考え方を把握している。面接、お試しなどを経ることで、施設、職員らとの人間関係を強化し、安心して利用できることを理解していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護する」のではなく、自立した生活を共に送る中で、見守りサポートしていくよう心がけている。	○	本人が健常者であったら、どのようにしたいのだろうかという思いに沿った介護をおこなうことで信頼関係を醸成していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の催しを定期的開催し、施設と家族が共にケアを考えていく姿勢をとっている。	○	介護を施設任せとせず、家族の協力を得ておこなうようにしている。家族の参加を促す為に、主な諸行事(新年会、クリスマス、暑気払い、夏祭り、運動会など)にご家族の参加を呼びかけて開催する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご請求書のお知らせや各種催しなど定期的にご家族に来院していただき、本人と家族が会話する機会をなるべく多くもうけ、よりよい関係になるよう支援している。	○	家族との時間を持っていただけるように、ご自宅への帰宅や楽しいおでかけ、外食等を積極的にお願している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各居室は、本人がいままで使っていたなじみのある家具をお持ちいただき、とまどいが少しでもないよう配慮している。	○	時々日帰り帰宅をケアプランに取り入れていく。自宅への思いやご近所との人間関係を回想することで関係が途切れないようにしたい。また、なじみの人々の来訪を促したりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性・介護度を考慮の上席配置などを検討し、孤立せず会話が弾むよう工夫している。	○	利用者が孤立することのないように、見守りをおこなっている。性格的に相性が合わない人に関しては、席替えなどをおこなうことで対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームでのサービス利用の終了という、老健・特養などへの入居がほとんどだが、機会があるたびにお見舞い、ご様子を伺っている。	○	他の支援に移行した方(ご本人・ご家族)との交流は続けている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所当時のアセスメント時にも把握する様つとめるが、その後の生活の中で把握していく	○	生活歴を把握し、本人の意向に沿った対応をおこなう。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにはセンター方式を使用しており、入居時の面接記録の際に生活歴やなじみの暮らし方などの情報の把握に努めている。 家族の面会が頻繁にあり、その折にも情報を得ている。	○	本人や家族と話す機会に、本人についての生活歴・なじみの暮らしの仕方等、情報の収集を継続して努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌や直接ケアすることにより、健康・安全・精神面等を把握する	○	満足した日々を送っているかどうかの視点にたつて、利用者の観察をおこない対応している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議の時に担当国会議を行い、ケアプランについてスタッフから意見や利用者の状況についてモニタリングし、結果を議題にしている。 日常的に、申し送りやスタッフの話の中から議題を出してもらっている。	○	利用者に変化があった時や必要に応じて随時担当国会議をおこなっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとのケアプランの見直し時、1ヶ月ごとの会議、または必要なときにその都度ご本人・ご家族・スタッフで話し合い、計画を見直している。医療の必要な方には医師等と連絡をとる。	○	入居者の状態において、訪問医と毎週話し合いを持っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌・個人の連絡ノートで記録し、情報を共有し、介護計画の見直しをしている。	○	個人別生活記録を集積し、本人の満足のいくケアが行われているか、レビューを行いながら、ケアプランの修正を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスをご利用の方でご家庭での介護が難しくなってきた方への相談などを、常時受付・対応している他、もう一つのグループホームの催しに積極的に参加し、交流をおこなっている。	○	将来資格要件を満たせば、共用型通所介護事業をおこなう予定。こうすることで入居者の生活に刺激を与えることに期待している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々はもちろんのこと、防災訓練の際には消防のかたにもご協力いただくなど、必要性にあわせ協力をお願いしている。	○	地域の皆様のご協力なくしては、施設運営がうまくいくわけがないという理念をもって、運営に当たっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認知症の進行状況に併せて、特養等の事業者と関係を深め転籍相談などをおこなっている。	○	近くの居宅支援事業所のケアマネージャーと話し合い、連携を持っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加、グループホームの現状を見ていただき、適宜アドバイスをいただいている。	○	平成19年12月・20年1月に地域包括支援センターである我孫子市介護支援課にも後援・協力を取り付け、市民後見人養成講座を実施。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年の5月より当施設へ訪問ドクターが来訪することになり、9月末現在9人の入居者中、8人が契約をし、週1回のペースで診療がおこなわれ、きめ細かい医療が受けれるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人理事長が精神保健福祉士の資格をもっており、利用者の様子を見ながら適宜職員にアドバイスをおこなっている。	○	現在、訪問医が精神科・老年科も経て診て来られているので、良い相談相手となっている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が日々のバイタルチェック・健康体操・薬管理等をおこない、利用者の健康管理をおこなっている。	○	看護師による健康チェックを日々行い、異常が発見されればこれに対応している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、病院側に利用者の身体状況(介助の状況や認知症状)を情報提供し、入院中の配慮をお願いしている。	○	早期退院を病院や家族などに促している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを希望されるご家族がほとんどであり、その場合は家族との連携が不可欠であることから、重度化になる前の段階から往診で様子を見ていただき、話し合っている。	○	終末期に向けた対応については積極的に取り組んでいるが、医療行為が伴うものについては、おのずと制限がある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ワンユニット少人数対応のメリットを活かし、個々の状態にあわせバイタルチェック表などを用意し、日々の変化を確認、気になる点にかんしてはかかりつけ医と連絡を取って対応している。	○	重度化した人に対しては、終末期をどのように迎えたいのか、事前に医師、看護師、介護者、家族で十分な話し合いを持って対応したい。これまでの事例では、最後はやはり病院で終末を迎えている。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから他施設へ移居される場合は、本人の身体状況の情報提供し、今後のケアに役立てていただければと支援している。	○	住み替えを余儀なくされた入居者には、これまでの生活状況を踏まえて、本人にふさわしい施設を選択し、できるだけダメージを少なく出来るように配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人理念でも個人の尊厳をうたっており、入社時職員には赤ちゃん言葉で声かけするのではなく、人生の先輩として対応するよう指導している。	○ 個人情報の取扱いに細心の注意をおこなっている。保管についても施錠できる場所を確保している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の思いを聞き、自己決定されたことを支える。	○ よく聞く努力を態度で示すことを実践している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の状態をよく認識して相手のペースに合わせてながら業務を進行させている。食事に要す時間は、それぞれ能力によって違うが、食べ終わるまで待つ様になっている。	○ 本人がもし健常者だったらという視点にたって対応している。その上で不足していることを補足するという対応でケア活動を行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	折々にお化粧品をしたりマニキュアをしたり支援している。美容に関しては、美容師さんに施設を来訪していただいたり、ご家族にご協力いただき外の美容店に足を運んだりしている。	○ その人の好む服装や身だしなみを理解して対応している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理や盛り付けに参加してもらったりして楽しんで食べていただくよう工夫している。ウッドデッキで育てている野菜の収穫を入居者とともにやり、料理に使って楽しくお話して食べていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族の持ってきたおやつ等を自室に備えて日常的に楽しめるよう支援している。	○ 家族が持ち込む嗜好品については、事前に報告していただいている。食事のバランスを見るため。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人別の排泄パターンを把握して、できるだけ自立して頂く方向にもっていく。	○	個人別排泄パターンを把握してそのタイミングがきたら、トイレ誘導の声掛けをおこなっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後は入浴をしているが、本人の希望があれば夜間入浴でも対応している。	○	入浴を楽しんでいただく為に、入浴支援が必要でない人に対しては、見守り介助で対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの思いのままに休息をしていただいている。朝の起床時間の遅い人は、朝食を遅らせるなどの対応をする。	○	心地よい眠りについていただけるように、各自の生活リズムに出来るだけ合わせながら対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	針仕事や家事・カラオケ・散歩など個々の利用者が得意・楽しみとしていることを見守り、支援している。	○	生活をおこなう為の役割を定めている。お掃除、来客のお茶だし、洗濯物の片付け、食事の後片付け、食材の下ごしらえなど夫々に役割を持っていただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を自分で管理している人と普段は施設で預かっている人がいる。近隣センターで開催されているバザーなどには皆でお財布を持って買い物に行ったりと、ショッピングの楽しみを満喫していただいている。家族が来訪時にその都度チェックをお願いしている。原則として、金銭管理は家族にお願いしている。	○	スーパーマーケットで買い物を楽しむ機会を作ってお金の使い方や、大切さを実感していただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回車で外出するほか、もう一つのグループホームの催しにもできるだけ声をかけ、参加していただくようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1週間に一度は車で季節折々の名所へ外出するほか、不定期ではあるが家族にご協力をいただき、遠足や外食を楽しむ機会を設けている。	○	手賀沼周辺には、絶好の散策資源が多くあるので、これらを訪ね歩く機会を多く作っている。その他、北グループホームへのイベントの誘いで、できるだけ多くの人に参加していただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話だとやりとりそのものを忘れてしまうことがほとんどの為、中々会いにこれない家族に手紙を書いていただき、何度でも読み返して思い出せるよう配慮している。また、行事のお知らせ等を本人自らが作成した招待状などでやりとりすることもある。	○	ご家族や親戚に対し、季節の便りや、暑中見舞いや年賀葉書を絵手紙風に作成していただいている。不穏状況に陥ったときは、家族へ電話させ納得を得るようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	すでにご家族等がまめに来訪してくださったり、外に連れ出してくださるので、感謝とともに対応している。	○	家族や、知人などの来訪を呼びかける手紙を出させている。主な行事についても招待状の形で出席を促している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の廃止を玄関に掲示。入社時職員にも配布をおこない、法人全体で禁止していることを、共通の認識としている。	○	身体拘束は絶対禁止である。これまで身体拘束の実績はない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の職員の数が多い時間帯は鍵をかけないでいる。	○	オープンして2年半たち、入居者が落ち着いてきたこともあり、鍵をかけなくても問題はない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由に居室・リビングを行き来されているので、随時安否確認に心がけている。	○	見回りを怠りなく行い、在室を確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	人によってはホイルや包み紙などを取り除いた食事をご用意するなど、個々の状態に応じた取り組みをしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、理事長に報告。防止については、管理者・スタッフ・役員も交えて対策を検討している。	○	事故防止のための機能訓練を個人の能力に応じておこなっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急病や事故に対する対応は、スタッフ会議などで勉強会を開き、習得している。	○	急変や事故発生に対応できるよう訓練をおこなっている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所防災マニュアルを作成しており、職員と対応を随時確認している。また消防署に指導を受けながらの防火訓練を実施している。近地域避難場所が少し離れている為、地域の方々にご協力・ご理解をいただきながら誘導をおこなってきたい。	○	防火について、我孫子東消防署の指導を仰ぎながら訓練をおこなっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	近年年齢と共に身体機能も低下しており、家族とも来訪時に話しているが、転倒などを少しでも回避できるよう見守りに気を配っている。	○	家族とのコミュニケーションを深めることで、リスク発生を未然に防止する対応をおこなっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	出勤時の申し送りノートの確認、口頭での申し送りの徹底、バイタルチェック等体調変化に気を配り、気になる点がある場合は看護師とすぐに連絡を取り、対応できるよう努めている。	○	看護師による健康チェックを日々行い、異常が発見されればこれに対応している。入居者の健康状態について、毎週健康チェックがなされ、異常があれば24時間体制で対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬を管理する箱に薬の目的や用法が明記してあり、準備の際に目に付くようにしている。また、分包にて処方してもらい、誤薬防止に努めている。	○	個人別薬品の管理を鍵のかかる場所に保管し、誤飲が発生しないようにしている。服用に当たっては、タイミング、量を間違えないよう情報をきちっと伝える努力をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘ぎみの利用者には、水分摂取や排便状況を表にし、管理を心がけている。	○	便秘が発生しないように排便の状況を記録している。日頃から食事に繊維素を重点的に取るよう献立に工夫をしている。それでも便秘に陥ったときは、便秘解消薬を服用させるなどその経過をウォッチする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き誘導をおこなっている。	○	自分の歯で食事していただく為に口腔ケアは欠かせない。義歯の手入れも怠ってはいけぬ。個人別に口腔ケアを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問医の指導や職員の日頃の利用者へのきめ細かい観察より、エンシュアリキッドなどを用い、体調・体重等健康管理をおこなっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染が心配される時期は、来訪ご家族にも玄関での手の消毒をお願いしている。また、トイレなどはアルコールでの清掃を徹底している。	○	インフルエンザなどに対応して、予防注射をお願いしている。ご家族及びスタッフにも接種を促している。ただし強制は出来ないので入居者には家族の事前承認をお願いしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	介護職員とは別に、調理職員が調理場を担当。食器洗浄機などを使い管理・清掃を徹底している。	○	食材については、賞味期限や保管の仕方に注意をおこなっている。 検便の実施。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチを配置し靴の履き替えが楽におこなえるよう工夫しているほか、利用者さんに楽しんでいただければと、玄関や建物周囲に植物を植えている。	○	玄関周りはいつも清潔に保ち、草花のプランターなどを飾っている。通りがかりの人が、ちょっと休憩していただくという気持ちにさせる気楽な雰囲気を出している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集合するリビングに関しては、日当たり・通気性も良く、くつろげる空間になるよう心がけている。また、春秋にはウッドデッキでお茶したりと、季節感を楽しんでいただいている。	○	共用空間を清潔に保つ努力をしている。ゴミや廊下の汚れなど、発生したらすぐに処理することをモットーにしている。トイレなど利用後は必ずチェックして、汚れはないか、流し忘れはないか等をチェックする習慣をつけている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内やウッドデッキでひとりになったり、気の合う人同士で集まって話が出来る。冬は窓際の陽だまりに集まる人が多い。また、玄関前や廊下コーナーにソファを設置し、居室以外で独りになれる空間を提供している。	○	椅子、テーブルを利用する場合、どこに座っていただくかを予め決めて、実行している。夫々の居場所について認識していただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた家具や愛用品を持ち込んでいただき、ご自宅で暮らしていた頃との違和感になるべく少なくなるよう心がけている。	○	時々家具の配置を換えるなど雰囲気を変えている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜窓を開け、換気に努めている。夏は冷房、冬は床暖房と加湿器を設置し、利用者が体調をくずさぬよう心がけている。	○	建物の構造上吹き抜け効果で換気は自然におこなっているが、意識的に全館開放し空気の入替えに心がけている。空調は、床暖房とエアコンでおこなっているため安全である。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで随所に手すりを設置している。	○	バリアフリーで車椅子で行き来が十分できる廊下幅があり、手すりも設備され、自立で生活できるようになっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	もてる能力を最大限に引き出し、達成感ややりがいを感じて自信を深めていただいている。	○	トイレ、浴場の表示など大きく掲げ、識別できるよう配慮している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキで日光浴をしたり、建物に隣接した敷地にいる犬の様子を見ることで利用者さんが楽しんでいる。	○	全室南向きの居室、ウッドデッキへの自由な出入りが出来る。手賀沼干拓地が一望でき、植栽が行き届いている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

少人数制のグループホームであることを活かし、楽しんでいただくことは勿論のこと、家事掃除から外出まで通常の日常生活を自立して営める支援に努めている。

介護理念の根底に流れるものは、「入居者がもし健常者であったら何を求めているかを考える」を基本とし、介護の実践に当たっては、自己実現のために不足している部分を手助けするという考え方で対応し、その人の持つ能力を最大限引き出すことをモットーとしている。